

昭和63年度



文化庁芸術祭参加

小林武史ヴァイオリンリサイタル

— 20世紀のヴァイオリン音楽 —

TAKESHI KOBAYASHI VIOLIN RECITAL

ピアノ＝パヴォル・コヴァーチ

PIANO : PAVOL KOVÁČ

1988年10月20日(木) 7:00PM

Thursday, October 20th, 7:00pm Suntory-Hall

サントリーホール(小)

マネージメント＝ミリオンコンサート協会



小林 武史 (こばやし たけし)

1931年2月生まれ。

1941 鈴木鎮一氏に師事。

1949 第18回NHK毎日音楽コンクール・ヴァイオリン部門第1位。

1951 パガニーニのヴァイオリンコンチェルトでデビュー。

1953 日本弦楽四重奏団の第1ヴァイオリン奏者となる。ハチャトリアンのヴァイオリンコンチェルトを日本で初演。

1955 東京交響楽団のコンサートマスターとなる。

1960 日本音楽舞踊批評家クラブ賞受賞。

1961 チェコスロヴァキア国立ブルノー・フィルハーモニーのコンサートマスターに迎えられ渡欧。ソリストとしても活躍。

1964 オーストリアのリンツ州立ブルックナー交響楽団のコンサートマスターに就任。

1967 帰国。読売日本交響楽団(読響)のコンサートマスターに就任。秋の読響の北米公演に参加、その後定期並びに特別公演のソリストとして活躍。桐朋学園大学講師となる。

1969 小林武史弦楽四重奏団を設立。ショスタコーヴィチの第2ヴァイオリンコンチェルトを日本で初演。

1970 読響の音楽監督となる。再びヨーロッパにソリストとして演奏旅行。

1971 読響を退団、ソリストに専念。

1972 11月、外務省・国際交流基金派遣文化使節として東南アジア各地でソリストとして演奏旅行。

1973 5月、チェコスロヴァキアの音楽祭にソリストとして招待され演奏旅行。

6月、再び東南アジアにソリストとして演奏旅行。

社団法人才能教育研究会教育部講師となる。才能教育東京弦楽合奏団の常任指揮者となる。

1974 10月から2ヵ月間、外務省、国際交流基金派遣文化使節としてトルコ、インド、東南アジア全域にわたり、コンチェルト、リサイタルなど27回の演奏会を行う。

1975 5月、チェコスロヴァキアの音楽祭にソリストとして招待され、ヨーロッパ各地を演奏旅行。

- 1977 4月, ヨーロッパにソリストとして演奏旅行。特に, ロンドンではデビューリサイタルを, ウィーンのみジーク・フェラインではモーツァルトのヴァイオリンコンチェルトを演奏, シンガポールでリサイタル。
- 1979 2月, 小林武史のために新しく書かれた伊福部昭の第2ヴァイオリンコンチェルトをチェコスロヴァキア国立ブルノー・フィルハーモニーで初演, チェコスロヴァキアの音楽祭などでリサイタル。
ウィーンのみジーク・フェライン, ギリシャでブラームスのヴァイオリンコンチェルトを演奏。
ベネズエラ政府文化庁から日本政府への要請により, 国際交流基金派遣文化使節として, 6月中旬から3ヵ月間ベネズエラ青少年の音楽教育並びに演奏会のために派遣される。
- 1980 2月, 再度, ベネズエラにスズキメソッドの指導のため招聘される。
3月, ニューヨークのWALLACE HALLでリサイタル。
- 1981 5月から2ヵ月間, ギリシャ, ルーマニア, チェコスロヴァキアに演奏旅行, チェコスロヴァキアでは, 音楽祭でスロヴァキア・フィルハーモニーと協演。
- 1982 10月, 日中国交10周年記念行事・国際交流基金派遣音楽使節として, 團伊玖磨氏とともに1ヵ月に亘り北京・上海・西安においてコンチェルト, リサイタルなど9回の演奏会, および指導を行う。
11月, 国際交流基金文化使節として, ボリビア, ブラジル各地において50日間に亘り, コンチェルト, リサイタルなどの演奏会および指導を行う。
- 1983 4月, クウェート国でリサイタル。
10月, チェコスロヴァキアのブルノー市国際音楽祭で, 團伊玖磨の新曲ファンタシアをブルノー・フィルハーモニーと世界初演。
- 1984 3月, 交流協会からソリストとして, 台湾へ派遣される。
5月, コレギウム・ムジクム東京を主宰。
12月, コレギウム・ムジクム東京とともに, 交流協会から台湾へ派遣され, 台北市芸術祭に出演。
- 1985 2月, 小林武史弦楽四重奏団を再結成, 第1回定期演奏会を行う。
4月, 朝鮮民主主義人民共和国の『四月の春, 親善芸術フェスティバル』に團伊玖磨氏らとともに参加。
- 1986 5月, クウェート, アブダビ両国において, リサイタル, 指導を行う。
7月から2ヵ月間, 外務省, 国際交流基金派遣文化使節として, ブラジル各地, アルゼンチン, ベネズエラにおいて, リサイタル, 講演会, 指導などを行う。
10月, 英国に演奏旅行。ロンドン, その他各地でリサイタルを行う。
- 1987 4月, 朝鮮民主主義人民共和国の『四月の春, 親善芸術フェスティバル』に参加。
5月, スイス, チェコスロヴァキア, ドイツに, ソリストとして, 演奏旅行。
社団法人才能教育研究会理事となる。宮城県中新田町パッハホール音楽院院長となる。
- 1989 5月, ブラーハの春音楽祭に出演予定。



パヴォル・コヴァーチ

1967年ブラチスラヴァの音楽院を卒業後、ブラチスラヴァの演劇・音楽アカデミーにてR. マクチンスキー教授に師事。

72年 ブラームスの協奏曲ニ短調を弾いて卒業。

65年 スメタナ・ピアノコンクールで名誉賞を受賞。

68年 チェコスロヴァキア全国コンクールで第1位優賞。

「The Studio of the Young」に参加し、スロヴァキア放送のディプロマに合格。ブラチスラヴァのチェコスロヴァキア放送交響楽団のソリストの他、ブラチスラヴァ木管五重奏団との共演やピアノ・デュオ「スタニスラフ・ザンボロスキー」のメンバーとして室内楽奏者としても活動しており、スロヴァキアの中堅ピアニストとしてその趣味の良い演奏は好評をも
■て迎えられその足跡はヨーロッパ各地に及んでいる。

現在、ブラチスラヴァの演劇・音楽アカデミーの講師。クヴェート音楽院客員教授として後進の指導にも当たっている。

1982年来日時に、東京都交響楽団の定期演奏会に出演、ベートーヴェンの第3協奏曲を演奏して絶賛を博した。

1988

昭和63年度



文化庁芸術祭参加

小林武史ヴァイオリンリサイタル

20世紀のヴァイオリン音楽
TAKESHI KOBAYASHI VIOLIN RECITAL

ピアノ=パヴオル・コヴァーチ
PIANO: PAVOL KOVÁČ

..... PROGRAMME

武満 徹：11月の霧と菊の彼方から
Toru Takemitsu: from far beyond Chrysanthemums and
November fog for Violin and Piano

アドルフ・シェルバウム：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番
Adolf Scherbaum: Sonata for Violin solo No.1 [世界初演]
Lento
Allegro con brio
Largo
Presto

セルゲイ・プロコフィエフ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ
ニ長調 op.115
Sergei Prokofiev: Sonata in D major for Violin solo op.115
Moderato
Andante dolce
Con brio

レオシュ・ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ
Leos Janáček: Sonata for Violin and Piano
Con moto
Ballade
Allegretto
Adagio

伊福部 昭：ヴァイオリン・ソナタ
Akira Ifukube: Sonata for Violin and Piano
Allegro
Cantilena
Allegro vivace

1988年10月20日(木) 7:00PM サントリーホール (小)
Thursday, October 20th, 7:00pm Santory Hall

マネージメント=ミリオンコンサート協会

『サントリー音楽財団推せんコンサート』

「20世紀のヴァイオリン音楽」というタイトルが付けられている今日の曲目は、日本、チェコスロヴァキア、オーストリア、ソヴィエトという4つの国の今世紀を代表する作曲家のヴァイオリン作品が並べられている。そしてソヴィエトを除く3つは、小林武史さんにとって「最も近かしい国」でもあり、ヴァイオリニスト小林武史の足跡が全て盛り込まれた選曲になっている。

以下、演奏者の言葉を交えながらそれぞれの曲の解説を記すことにする。『 』内演奏者談。

* * *

Toru Takemitsu

●武満 徹 (1930～)：《11月の霧と菊の彼方から》

武満 徹は昭和5年に東京・本郷に生れ、幼年期は中国で送った。清瀬保二、早坂文雄らに私淑はしたもののほとんど独学で作曲法をマスターし、ピアノ曲《2つのレント》を発表して注目を集めたのが若干20歳の時のことだった。そして1967年にニューヨーク・フィルハーモニックからの依頼で作曲した《ノヴェンバー・ステップス》のセンセーショナルな成功によって、武満 徹は日本を代表する作曲家として世界各地で彼の作品がとり上げられているし、ロンドンでは毎週テレビで放送されているほどの人気を得ている。

この《11月の霧と菊の彼方から》は、1983年の日本国際音楽コンクールのヴァイオリン部門の課題曲として作曲されたもので、タイトルは大岡 信の詩から取られた。楽譜に書かれている作曲者の言葉には「作品の構造は簡明で、B—C—E—Fis—G—Asという6つの基本的な音と、その“影”として使われている残りの6つの音(D—Eis—F—A—H—Cis)に基いた、正確な遠近法で作られている」とある。

『2月に来日したズッカーマンもこの曲を奏していました。ボクもここ数年ロンドンをはじめヨーロッパで何回か奏しています。どこの国でも現代作品はあまり喜ばれませんが、武満さんだけは別です。ですから来年のブラハの音楽祭でもこの曲を奏くつもりになっています。』

Adolf Scherbanm

●アドルフ・シェルバウム (1931～)：

無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ～世界初演～

『シェルバウムはリンツのオーケストラのソロ・フルーティストで、一緒にアンサンブルを組んでいました。オーストリアではかなり知られた作曲家ですよ。ボクのためにソロ・ソナタ(2曲)と協奏曲を(1曲)書いてくれたのですが、この第1番は今まで演奏する機会が無くて、やっと日の目を見るわけです。今回が世界初演です。』

アドルフ・シェルバウムは1931年の8月15日にウィーンで生れ、小学生の頃から作曲に親しんで、ルードヴィッヒ教授に師事した。ウィーン国立アカデミーでF. シュミット、A. ウール両教授に作曲を師事し、同時にフルートをウィーン・フィルの首席奏者で同アカデミーの教授J. ニーターマイヤーとH. レズニチェックに師事した。在学中に《木管五重奏曲 作品1》を発表し、卒業後はウィーン・オペラ・スタジオ管弦楽団のソロ・フルーティストを経て、1953年からリンツ・ブルックナー交響楽団のソロ・フルーティストに就任して現在に至っている。

数多くの管弦楽曲や協奏曲（ヴァイオリン、ピアノ、トランペットなど）、室内楽曲などを作曲しており、オーボエ協奏曲は、リンツ・ブルックナー・ハウス起工記念演奏会で、故クルト・ヴェスの指揮で初演されたほか、1980年にテオドール・グシュルバウアーの指揮で初演した協奏曲（自演）は大きな反響を呼んだ。

作風は、調性の枠を越え、十二音技法を用いたもので、ブレヒトの詩に作曲した合唱曲もリンツで初演されている。

（この項、リンツ・ブルックナー交響楽団のソロ・ファゴット奏者の馬込 勇氏の御協力によるものです。）

Sergei Prokofiev

●セルゲイ・プロコフィエフ (1891～1953)：

無伴奏ヴァイオリン・ソナタ ニ長調 作品115

1947年の作曲で、もとは20人ほどのヴァイオリニストによる斉奏用に書かれた作品である。こうしたヴァイオリンの斉奏演奏は、当時のモスクワで流行っていたもので、とくにバッハやヘンデルの作品が多く演奏されていたという。これに刺激を受けたプロコフィエフが、同じ

戦後を生きぬいたアーティスト

向坂 正久

話は1970年にさかのぼるのをお許しいただきたい。その年は大阪は万国博、東京はベートーヴェン生誕200年祭と話題が多く、とにかく賑やかな年であったわけだが、ある日小林武史氏から電話があり、会うこととなった。

「あなただから頼めるのだが、そろそろ日本の演奏家のためにもユニオンが必要じゃないかと思う。ついては自分が表面に立つと、まとまるものもまとまらなくなるので、あなたに立ってもらいたい」というのである。冗談じゃない、こちらは演奏家じゃないから表面には立てない、しかし裏方はつとめよう、表面に誰を立てるか、相談の結果、当時N響のヴィオラ奏者の嶋田英康氏が適任ということになった。とにかく2年がかりで現在のユニオン日演協の土台作りをしたのである。

その課程でのある日小林武史氏と嶋田英康氏は理由はわからないが口論となり、はては四つに組む大相撲となった。私は啞然として眺めていたが、しばらくすると仲良く酒をくみかわしている。2人は東響時代からの親友で、若いころからいつもこうなのだ気づくには時間がかかった。とにかく小林武史氏は若い時代から血気さかんで、妥協をしない性格である。そのために随分損をしていると私には思われてならない。

1980年に入って、つまりこちらも50代に入ると小林武史氏から「あなただから頼める」といわれるのがこわくて、実は逃げているのであるが、遠くから見ているとその活躍ぶりの見事さにおどろかされる。彼はまさに戦後を生きぬいた数少ないアーティストである。

今回のリサイタルも意欲的だし、ピアノのパヴォル・コヴァーチ氏とは長い交際を続けている名コンビでもある。彼は喧嘩もするが、信義も厚くて、諸外国に多くの友人を持っている。これだけ内外で活躍しているひとを何とか顕彰できないかという声もこのごろよく聞くのである。そろそろ、私も彼から逃げるのをやめる時期なのかも知れない。

TEAC®

デジタル・ソースへの挑戦。 究極のサウンド・ステージ をいま披露。



限りなき感動の追求。
ティアックの真髓がここに結実。

V-970X
¥99,800



3ヘッド・リバースの真価。デジタル・
クオリティへのあくなき接近。

R-919X
¥89,800



溢れる機能を搭載して、
Wカセットの最高峰へ。

W-990RX
¥89,800

ティアック株式会社

営業部 〒181 東京都三鷹市下連雀4-15-30 ☎(0422)45-7731 代 ■技術的なお問合せ、ご相談は、"AV技術相談室"へ ☎0425(60)7761(直通) ■"ドルビー"という語およびダブルD記号はドルビー研究所の商標です。 ■dbxおよびdbxマークは、dbxインコーポレーテッドの商標です。 ■あなたがビデオ(テープレコーダー)で、録画(録音)したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。